

四季のコンサートだより

1999年10月1日発行

浜松音楽友の会

事務局 〒430-0904浜松市中区河川11

電話連絡 (053)473-3579(原)

会員の皆様へ

竹村 淳司

浜松音楽友の会々員の皆様こんにちは！

先日は竹村淳司ホルンコンサートにお越しくださしまして、誠にありがとうございました。予想以上のお客様の多さ、そしてご来場いただいたお客様の温かさが手に取るように分かり、演奏者としてとても演奏のしやすい環境の中でのコンサートを進めることができ、幸せに感じております。

そして、友の会のスタッフの方々、また演奏会を開催するに当たって係わっていただいた全ての皆様にも、ここでお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

スタッフの方々にはリサイタルのお話をいただいて以来、幾度となく連絡をいただいたり、当日の進行など、出演者である私たちに最高の環境をご提供いただくために、計り知れない努力をされていたことに対して、とても感謝しています。

コンサートで皆さんにお伝えした通り、私がリサイタルを開催した時は、まだ東京シティフィルのメンバーでしたが、その翌月、東京交響楽団の首席ホルン奏者として移籍いたしました。とは言っても、まず半年間の研究員を経て正式なメンバーになるのです…。私にとっては、人生の転機とも思われるこの時期に、地元浜松でこのような立派なリサイタルを経験させていただいたことは、何か運命的なものを感じ、また一生忘れることのできない出来事になりました。現在は新しい職場で、新しい仲間と、不慣れながらも厳しく楽しくお仕事をさせていただいております。新しい仲間もとてもいい人たちばかりなので、自分たちの音楽づくりに没頭できるよい環境が整っています。



恩師・遠山先生からインタビューを受ける竹村さん

最近、私は仕事の関係で年に5～6回は地元浜松に帰省しており、その度に思い出すことがあります。中学1年生から今のホルンという楽器に出会い、その魅力にひかれホルンを専門的に勉強し始め、そして音大に合格し東京での生活を始めるまでの期間のことです。自宅のレコードプレーヤーで初めて聞いた海外のホルン奏者の音、浜松に国内外のオーケストラがやってきてライブで聞いたホルンの音色、これは本当に衝撃的でした。そして中・高通して続けた吹奏楽部のこと、とにかく思い出されることはほとんど全てと言っていいほど、ホルンに関わっていることです。私はそれらのことを思い出すたびに、初心忘れるべからず、という言葉を連想してしまいます。当時はホルンに関する情報が多くなかったもので、とにかく何でも（ホルンに関すること）興味がありました。そして、気軽にオーケストラを観ることができたのが、“題名のない音楽会”でした。現在、私はその番組に係わっているということは、これも何かの縁なのでしょうか…。

上京する時の母の涙に、いつかは成功して必ず浜松に帰ってくると誓ったその日から、東京で生活していても、私の生活の根元は浜松なのです。私にとって地元浜松は、今の生活のエネルギーでもあり、母なる故郷でもあるのです。

私の師匠、千葉馨氏の言葉をお借りすると、「ラッパは生涯勉強だ」、とおっしゃっています。本当に私もそう思っています。今のこの地位に甘んじずに、さらなる発展を目指して、これからも頑張っていこうと思います。



会員からのお便り

心の穴を埋めてくれる四季のコンサート

一昨年最愛の妻を亡くした私が、すっかり気持ちが落ち込んでいたその時に、こういう気軽なコンサートがあるからと、知人から「四季のコンサート」を紹介されました。それから足かけ3年、毎回欠かさず聴かせていただいておりますが、いろいろなジャンルの音楽が低料金で聴かれ、本当に楽しい時を過ごさせていただいております。まさに妻を亡くし、ポッカリ空いた心の穴を完全に埋めてくれているコンサートです。先日も、ちょうど春のコンサートの終わった直後に近所の会員の方にお会いした時、お互いに実に素晴らしい、楽しいコンサートだったね、と挨拶代わりに話をしたことでした。

私は若い頃からクラシックが好きで、昭和20年代後半、ちょうどLPレコードが出始めていた頃、いち早くLPレコードプレーヤーを買い込んで、下宿で楽しんだものでした。それ以来、クラシックコンサートには時々顔を出しますが、とにかく堅

苦しいものが多いのです。その点「四季のコンサート」はリラックスして聴けますし、特に感心することは、お母さんと一緒に来ている子供たちが静かに真剣に聴いていることです。そして、演奏する者と会場の聴衆が一体となって、温かい雰囲気を作っていることです。それから浜松出身の演奏家シリーズも大変よい企画だと思います。音楽の町である浜松は、これからもどんどん新人の音楽家を輩出することでしょう。そういう方々に発表の場を作ってあげることも、地元としては必要なことだと思います。

以上私の感想を述べさせていただきましたが、大衆のためのクラシック・コンサートを企画運営される方々のご苦労は大変なことと思いますが、これからも私の心を満たしてくれるいい音楽を聴かせていただけますようお願いいたします。

コンサートの思い出

ぼくが初めて「四季のコンサート」を聞いたのは、お母さんのおなかの中にいる時でした。もちろん、おぼえていませんが、たぶん聞いていたと思います。ようち園に行くようになったころ、両親といっしょにコンサートに行き、ぼくは保育室にあずけられました。そこでは、おもちゃで遊んだり、おいかけてをしたり、じゃんけんをしたり、おかしやお茶をのんだりして、とっても楽しいところでした。

小学校へ行くようになったころ、ぼくも両親といっしょにコンサート会場に行き、コンサートを聞きました。が、いつもね

むってしまいました。それはたぶんつまらない小さな音の曲とか、知らない曲ばかりだったからだと思います。

ところがどっこい、今年の春のコンサートはちがいました。最初から最後まで、アンコールまでおむらさず、ぜんぶ聞けちゃいました。なぜかという、ほとんどの曲が知っている曲だったからです。そしてどれかの曲で、ひとりの人が手をおでこにつけて「キャー」と言ったのがとてもおもしろかったです。

また、楽しいコンサートを聞きに行きたいです。

音楽の喜び

音楽と私との付き合い。それは15年も前にさかのぼる。私は、いつも音楽と共に生きてきた。それは、現在も、そして未来も永遠に変わらない。この「音楽と共に生きたい」と願う私の強い欲望は、「音楽」そのものが持つ偉大なる力によって創り出されたものだろう。頭の中で突然フッとメロディーが鳴り出したとき、そしてそれを楽譜にするときだとか、作曲者のメッセージを楽譜から読みとろうとするとき、そしてそのメッセージに自分の心に内在するあらゆる感情を織り込ませ演奏するときだとか、そうしたときに音楽が、私にエネルギーや生きている幸福感を与えてくれていることに気付く。そして、これに対し、私は最大の敬意を持って、最大の愛情を音楽に捧げる。このように、私にとって音楽は、かけがえのない「いのち」なのである。

音楽と私の関わりの中で、コンサートに行くということは、

とても大きな意味を持っている。例えば、100回コンサートを聴きに行くとしたら、その数回、いや、たとえ1回でも自分が夜眠れなくなるほどに心が揺さぶられる素敵な音楽に出会いたい。そんな願いをいつも心に秘め、私は幾度もホールに足を運ぶのである。そういった意味で、「四季のコンサート」は、音楽との「出会いのチャンス」を数多く与えてくれている（会員になって約10年なので、少なくともこれまでに春夏秋冬で約40回！）。また、楽しい演目があったりすると、「出会いを待つ喜び」をも与えてくれる。春はまだか、秋はまだかと、季節の到来を待つ喜びと、その季節までに自分を磨こう、音楽の心を感じとれる器を創っておこうという、自分さがしの喜びがある。

このような機会を持つことができる自分をつくづく幸せに思う。そして、これからも「四季のコンサート」と共に音楽の持つ魅力や素晴らしさを味わっていきたいと思う。

福田小学校4年 平木大地

高校3年 寺田雅子

これからのコンサート予定

秋

相沢吏江子ピアノリサイタル

10月21日(木) 6:45 PM

1988年春、13歳でカザルスホール、オープニングシリーズにソリストとしてデビュー。史上最年少でマールボロ音楽祭(アメリカ)にも参加。

ミエチスラフ・ホルショフスキーの最後の弟子。

1997年、小澤征爾と共演した新進気鋭のピアニスト。

フィラデルフィア(アメリカ)在住。

プログラム

- フランス組曲 第2番 ハ短調(6楽章) BWV 813……………バッハ
- 雨の樹 素描 #1 & #2……………武満 徹
- 喜びの鳥……………ドビュッシー
- ヘンデルの主題による変奏曲とフーガ Op.24……………ブラームス



冬

安永 徹(ヴァイオリン)・市野あゆみ(ピアノ) デュオ・コンサート

11月3日(水・祝) 6:45 PM

ベルリンフィルのコンサートマスターという重責を長年にわたって維持している、日本が世界に誇るヴァイオリニスト安永 徹と、ソリスト・室内楽奏者として、ヨーロッパや日本で高い評価を受けているピアニスト市野あゆみとのデュオ・コンサートです。

ご夫妻ならではの息の合った演奏が楽しみです。

プログラム

ヴァイオリンとピアノのためのソナタ

第40番 変ロ長調 K.454……………モーツァルト

ヴァイオリンとピアノのための幻想曲

ハ短調 Op.159 D934……………シューベルト

ヴァイオリンとピアノのためのソナタ

第2番 ニ短調 Op.121……………シューマン



2000年 ふわあいおんがくかい 予定

春

ダンカン・マクタイヤー (コントラバス)、井上祐子 (ヴィオラ) デュオ・リサイタル 4月21日(金)

「コントラバスのバガニーニ」「今後聴く中で最も洗練されたコントラバス奏者の一人」と称賛されているダンカン・マクタイヤーと、ヨーロッパや日本のオーケストラでソリストとして活躍中の井上祐子(浜松生まれ)ご夫妻の共演です。

夏

田部京子 ピアノリサイタル 7月15日(土)

東京芸大附属高校在学中に、第53回日本音楽コンクールに最年少で1位受賞。東京芸術大学卒業、ベルリン芸術大学留学後も数々のコンクールに上位入賞。世界中で活躍し、高い評価を得ている。今、最も期待される若手ピアニスト。

秋

吉野直子と仲間たち 10月31日(火)

吉野直子(ハーブ) 佐久間由美子(フルート) 矢部達哉(ヴァイオリン)
川本嘉子(ヴィオラ) 藤森亮一(チェロ)

「ハーブを含んだ室内楽のレパートリーは、ハーブの伝統があるフランスの作品が多いのですが、今回のプログラムでも洒落っ気たうぶりのフランスの香りを皆様にお届けしたいと思います。佐久間由美子さんや、矢部達哉さんをはじめとした共演者の方々は、私が音楽的にとても信頼している素敵な演奏家ばかりです。デュオから五重奏までのさまざまな編成で、いろいろな音色の世界を楽しんでいただければ嬉しいです。」

吉野直子

冬

宮本文昭 オーボエリサイタル 12月3日(日)

長年、ドイツのケルン交響楽団のトップの座を守り続け、日本の演奏会でも大活躍の日本を代表するアーティスト。「四季のコンサート」へは2回目の出演です。

浜松出身の演奏家シリーズ

山田美津子 ソプラノリサイタル 6月13日(火)

浜松市民オペラ「カルメン」ではミカエラ、「椿姫」では主役のヴィオレッタを好演。誰もが認める美声の持ち主。現在、イタリア・ミラノにて研鑽中。久しぶりの浜松でのコンサートで、留学の成果が大いに楽しみです。浜松信愛学園高校(現浜松学芸高校)音楽科卒。

各回共 於：はまホール

★会員の皆様へのお願い★

会員日より 皆様のご寄稿をお待ちします。400字詰原稿用紙2枚以内でお願いいたします。テーマは自由です。

会員登録は、年度が変わってもそのまま継続されます。

退会希望の方は、ハガキに住所・氏名・電話・会員番号をご記入の上、前年度の12月末日迄に、事務局宛に退会の旨をご連絡下さい。

名義変更の方は、ハガキに旧会員と新会員の住所・氏名・電話・会員番号(旧会員の)をご記入の上、事務局宛にお送り下さい。

保育室ご利用の方は、コンサートの前日までに、有本 ☎053(449)0457までお申込み下さい。

開場時(開演30分前)から終演までお預かりします。1回500円です。

●インタビュー・花束贈呈係を募集しています。ご希望の方は、事務局までご連絡下さい。